

平成25年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業  
(特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究)」報告書

団体名	国立大学法人金沢大学
研究開始年度	平成25年度

## I 概要

### 1 指定校の一覧

設置者	学校種	学校名（ふりがなを付すこと）
国立大学法人 金沢大学	特別支援学校	かなざわだいがくにんげんしゃかいがくいきがっこうきょういくなるとい 金沢大学人間社会学域学校教育学類 ふぞくとくべつしえんがっこう 附属特別支援学校

### 2 研究テーマ

キャリア教育の視点からの教育課程を小中高3学部の学習内容の一貫性、系統性、関連性の側面から再考する。

### 3 研究の内容

#### (研究内容)

知的障害のある児童生徒一人一人が社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していけるよう、小学部、中学部、高等部の12年間の学習活動をキャリア教育の視点で捉え直し、教育課程を再考する。

具体的には以下の3点。

- ・キャリア教育の視点から、小学部、中学部、高等部の12年間の学習活動の一貫性、系統性、関連性についての見直しを行い、キャリア発達を促す教育課程を編成する。
  - (1) これまで行ってきた地域資源を活用した学習活動について見直し、小学部、中学部、高等部におけるその学習の意義や有効性を明らかにし、今後の取組を検討する。
  - (2) 次の学部（小学部から中学部、中学部から高等部）への進学をキャリア発達の機会として捉え直し、進学に関係する事前の学習等を充実改善する。
  - (3) 中学部と高等部が合同で作業学習を実施する。

#### (評価の観点及び評価方法)

- ・キャリア教育やキャリア発達について教員が共通理解をしたか。  
(方法：教員へのアンケート調査)
- ・キャリア教育の視点から、小学部、中学部、高等部の12年間を見通した学習活動の見直しができたか。  
(方法：教育課程の改善の実施、児童生徒の行動観察と内面の推察、生徒の感想、教員アンケート)

#### 4 研究成果の概要

- ・研究助言者を講師とした研修会を年3回実施し、小学部、中学部、高等部の教員が「キャリア」「キャリア発達」「キャリア教育」についての理解を深め、共通の認識を持つことができた。その共通理解に基づき、キャリア教育の視点から小学部、中学部、高等部の12年間で育みたい力について協議し、明らかにすることができた。育みたい力については、個々の教員の考えを学校全体の共通の考えとしてまとめ上げていくために、職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組みや基礎的・汎用的能力等と関連づけて、さらに検証していく必要がある。
- ・キャリア教育の視点で教育課程の改善に取り組んだ。具体的には(1)各学部で実施している地域資源を活用した学習の見直し、(2)小学部から中学部、中学部から高等部への進学に関係する事前の学習等の見直し、(3)中学部と高等部が合同で作業学習等の実施に取り組んだ。

(1)では、小学部においてトランポリン選手や音楽教育専修の学生を講師として招き、本物の活動に触れることで講師に憧れたり真似をしようとしたり意欲的に活動に参加する姿が見られた。中学部においては、喫茶における接客業務の体験や生徒に関心が高いハンバーガー店員の講話を聞き、その学習経験を基に校内バザーで喫茶店を展開した。年間を通して学習活動につながりを持たせることで、働くことに対する生徒の関心が高まるとともに、より主体的に取り組む姿が見られた。高等部では、作業学習製品の納入先の代表者から自分たちが制作した品物がどのように使われ、お客様からどのような評価を得ているか講話をしていただいた。自分たちの活動が社会で役立っていることを知り、製品に対する愛着が高まると共に今まで以上に意欲的に活動する成果が見られた。

地域資源の活用については、児童生徒自らが地域に出かけて活動することを通して、自己効力感や地域の一員である所属感を持つ活動が不足していることが明らかになり、今後は具体的な活動を考えていく。

(2)では、小学部と中学部の教員、中学部と高等部の教員が同一単元で協議し、それぞれの学部で今までの学習活動のねらいを明らかにし、学習内容を充実改善した。先輩後輩として教え合い学び合うことで、後輩は次に進む学部への期待を持つとともに先輩は自らの生活を振り返ることができた。児童生徒同士の学び合いの学習成果を確認することができたが、学習内容の検討は不十分である。学習のねらい、活動内容と学部間における時数の調整、評価の方法についてさらに検討が必要である。

(3)では、イベントとして地域の銀行のカレンダーの袋入れ作業で、中学部と高等部が合同の作業学習を試みた。ここでも中学部・高等部生徒の関わりを通してともに学び合い、それぞれに自らの作業のあり方を振り返ることができた。この試みを通じて中学部と高等部の教員が協議し、中学部の教育課程に職業・家庭科を設けることになり、次年度の中学部から高等部の6年間を見通した体系的な進路指導や作業学習の実施に向けて検討している。